

2023年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式) 記述式問題 解答例

学部・学科:2月4日 神学部 神学科

問題2

(2)

押さえてほしいポイント

- ・食事はユダヤ人にとって宗教的な意味合いを含む親しい交わりのしるしであった。
- ・徴税人は、異教徒であるローマへの税を徴収する仕事に携わり、ユダヤ社会から排除されていた。
- ・ユダヤの律法を大切にするファリサイ派から見て、イエスが徴税人と共に食事をすることは、異教とつながる汚れの行為であった。

問題3

解答例

教皇フランシスコが引用文の最後のところで、信仰によって、人は、神が一人ひとりの人間を永遠の愛をもって愛し、それによって人には無限の尊厳が与えられていることを認識できるようになると述べているように、人は神を知り、愛するほど、神の自分自身への、また他者への愛を深く知り、どの人も大切な存在であることに気づかされる。

なぜなら、イエス・キリストの示した神を知り、愛することは、イエスがすべての人のため、一人ひとりのために十字架にかけられ、いのちを与えたことを知り、誰一人として、神の普遍の愛が及ばない者がいないことを信じることにつながるからである。

それゆえに教皇は、「見捨てられた兄弟、排除された兄弟、その一人ひとりのうちに、キリストご自身を見る」と述べている。すなわち人が自分自身と同じように、すべての他者、とりわけ傷つけられ、弱くされている人々を大切にして、その人たちの「隣人」となろうとするとき、そこにキリストと出会うのである。

このように神への愛と隣人への愛は、神への信仰において一つのことになっている。